

令和元年度 第1回西区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和元年7月31日(水) 午後1時15分～午後2時50分
会場	西区役所健康センター棟1階 大会議室
出席者	西区自治協議会委員25名(欠席11名) 教育委員：佐藤教育委員，渡邊教育委員 事務局：教育次長，教育総務課長，教育総務課主査，地域教育推進課長，学校支援課長補佐，学校人事課管理主事，保健給食課長補佐，坂井輪地区公民館長，坂井輪図書館長，総合教育センター所長，西区教育支援センター所長，他2名 西区役所：西区長，副区長，地域課長補佐 傍聴者：3名
議事	1 開会 2 教育委員挨拶(佐藤教育委員，渡邊教育委員) 3 令和元年度教育委員会の施策について(教育次長) 4 意見交換(司会 西区教育支援センター所長) (1) 令和元年度教育委員会の施策について
司会	ただいま説明がありました教育委員会の施策につきまして，ご意見ご質問やご提案のある方は挙手願います。また，発言の際は，団体名とお名前をお聞かせください。
自治協委員	資料の6ページ目，いじめ対策と不登校対策についてお聞きします。 新潟市には冊子(初期対応ガイドブック)がありますが，新潟市だけではなく，全国的にいじめの件数は増えています。また，SNSなどでいじめが複雑化しているというニュースや特集をいろいろ見ますが，一つ感じることは，いじめに直面している児童や生徒の気持ちに向き合える窓口についてです。例えば，学校へ行けないなどの不安を抱えている子どもたちへの相談窓口として，県のホームページなどにいろいろな相談窓口が掲載されていますが，いじめ被害を受けている子どもの気持ちに立つと，そこにすぐ相談しようというルートがなかなか見つけられないのではないかと考えています。警察には何を言えばいいのか，市には何を言えばいいのか，学校には何を言えばいいのか，といったどの問題をどのカテゴリーの部署に相談すればいいのかということが傍から見て，正直なかなか分かりにくいところがあります。そのため，場合によっては，極端な例でいいますと，学校などに相談せずに弁護士や探偵に相談するような行き過ぎたケースも出てくるのではないかと思います。子ども自身が実際にいつ誰にどんなふうに

言ったらいいのかという分かりやすい相談窓口が、親世代から共有できるような部分でもう少しあればいいなと感じています。

そのために、パートナーシップ事業や学校の働き方改革の一つとして、先生が少し楽をできるような形で、親世代や地域の方々がいじめや不登校で協力できる部分があればと思います。もしあるのであれば、自分たちの世代は積極的に頑張りたいとも思っています。また、ないのであれば、民間の力で何かやるべきことがあるのかどうかということもお聞きしたいです。

次に、不登校についてですが、不登校を生まないことが一番いいとは思いますが、どうしてもそれを選択しなければいけない子どもたちもいると思います。その場合、完全に自宅に引きこもるか、フリースクールみたいな場所に通うのか、もしくは校内のフリースクールのような部屋があるそうなので、そうした校内の別の場所に通うことになるかと思っています。校内の別の部屋に毎日来て、いつ教室に出てきてもいいような緩い形でも繋がって、そこで教室に戻れる流れをつくる配慮も何か試してもいいのではないかという感じがしました。

いじめ対策にまた戻るのですが、そもそも何でいじめが起きて、誰がいじめたくなって、誰がいじめられてしまうのかといったことを、自分自身でまだ理解できていない発育段階の子どもたちがたくさんいると思うのです。そういう子どもたちが、例えば自分がどういう人間で、どういう個性を持っているかということ把握して、それを少しずつ馴らしていきながら、コミュニケーションスキルを付けていったらいいのではないのでしょうか。アンガーマネジメントなどで、それを上手にコントロールする方法を、子どもにも分かる水準に落とし込んでやってみたらどうかと感じています。

実際に、私はいろいろな企業取材する立場ですが、アンガーマネジメントとか報連相とかをやっているのですが、その後と同じ事案が実際にまた起きてしまうと、やはりカーッとになってしまう人もいます。それでも、やって共有することで、ちょっと風向きが変わってみたい、自分がこういう人間なのだから、ここまでは許せるけれどもここからは許せないとか、そういう基準を客観的に子ども自身だったり、先生や保護者だったり分かるようになれば、家庭や学校などいろいろな場面で、子どもが“自分が全部悪いんだ”ということではなくて、“ここまでは自分の責任だけれども、ここから先は他の責任かもしれない”とうまく切り分けて物事を受け止められるようになると思います。まとまりが少しありませんが、施策の説明を聞いた感想と提案をいろいろ話させていただきました。

ちが相談できる窓口についてです。本人が担任の先生や自分の親、きょうだいなどに相談したり、本人が言えないのであれば周りにはいる子どもたちが担任の先生に相談をしたりすることが一番理想的ではありますがけれども、なかなかそうはいかない現実もあるかと思えます。そうしたときに、直接関わりのない第三者であれば、遠慮なく自分の悩みを吐露できることもあるかと思えます。そこで市内の子どもたちには、こういう相談窓口がありますということを、カードのような形にして紹介していて、そこには電話番号などが記されています。

また、最近は県がLINEによるいじめ相談を始めていて、テーマは重いのですが、SNS世代の子どもたちが電話より身近に感じているLINEであれば、自分の悩みが吐露できることもあるかと思えますので、そういったものも紹介しています。

ですから、周りの大人、そして周りの友達、あるいは本人が誰かに相談できるというチャンネルをたくさん紹介しておき、いざというとき、どこに相談しようかについて子ども自身が選択できるような環境を、私たち大人が整えていけるといいなと感じています。

それから親世代がそうしたことを共有できるというお話をいただきました。子どもだけではなく、実際に悩んでいる子どもを抱えているお父さん、お母さん、そして周りの皆さんが、こういうときはこういう所に相談できるといいなというのが分かっていただけのような情報を、私どもからも発信していくことが大切であるかなと感じました。ありがとうございます。

そして、同じくいじめに関しまして、自分がどういう人間であるかということやコミュニケーションの在り方、アンガーマネジメントなどについて、子どもに分かるやり方というお話をいただきました。友達、人と関わる機会が少なくなっている子どもたちに、学校としても人との関わり方、幼稚園、小学校低学年、高学年、中学校と発達段階に応じた人との関わり方を、さまざまな場面で提供していくことが大切だと思います。そして、地域でも、子ども同士、特に同級生だけではなく、異年齢の子どもたちと関わられるような行事をやっていたけるとよいと思います。子どもたちがいろいろな人と関わって、その関わりの中で、自分はこういう人間で、こういう良いところがあって、あの友達にはこういう少し嫌なところもあるけれども、こういう良いところもあるといったコミュニケーションの在り方を学んでいけるような機会を、学校そして地域で提供していけるといいなと感じました。

それから不登校です。それを選択することも一つの方法であると思っていますが、学校、特に中学校には適応指導教室というものがあります。一部屋確保してあって、そこに先生方が順番に必ず顔を出して、子どもたちが自分のペースで登校して、自分のペースで学習できるよ

うな環境を整えてあります。子どもが社会と関わることが全くなくなるように、学校、そして地域でもそういう場を提供できるとよいと思います。やはりこれも学校と地域で合わせて、不登校傾向にある子どもたちの居場所を確保できるようにしていけるといいなと感じました。

自治協委員

施策の3ページですが、来年度から学習指導要領が変わり、外国語教育が充実されるということで、小学校から英語が始まっています。それでお聞きしたいのは、タブレット端末の導入はどうなっていくのかということです。既存の学校でタブレット端末台数がある程度持っている学校もありますので、現状と今後の方針を聞かせてほしいということが一点目です。私ども西区自治協議会では公募型提案事業で、プログラミング教育を先取りして、新潟大学工学部の方が大人向けのプログラミング勉強会を五十嵐小学校で、授業方式で行うことになりました。これは支え合いのしくみづくりのテーマで募集したもので、そこがポイントにもなっていますが、延長線上に学習指導要領に基づいたタブレット端末を活用した英語教育にも関係してくると思っています。東京ではほとんどの学校がタブレット端末を活用しているようですが、新潟市では今後の方針をどう考えているのかお聞かせください。

もう一点は、私の知人の娘さんが埼玉の学校で教員をしているのですが、英語指導を非常に負担に感じているそうです。ところが、来年度からは全ての学校で英語を教えることになっています。教員によって英語指導に温度差があっては困りますので、これから実施する研修会などのいろいろな場を通じて、専門以外の教員についても、レベルアップが図れるようお願いしたいと思います。これは要望ですので、この場では、財源問題はありますが、タブレット端末の今後の方針について聞かせてください。

学校支援課

タブレット端末につきましては、原則各学校13台を基本としています。ゆくゆくは16台にしていきたいと考えていますので、現時点では13台の学校と16台までの学校があると聞いています。

今後の方針につきましては、学務課が担当しているので、ここではお答えできないのですが、理想を言えば、学級で1人1台ずつ持つことができ、それを交代で各学級が使えればよいと思いますが、委員がおっしゃるとおり、財源と関わりがありますので、今後の検討材料だと思っています。

それから、外部講師などが関わり研修のレベルアップを、とのお話をいただきました。本当にありがたいご意見だと思っています。学級

担任が英語の授業を行うことが原則となっていますので、やはり全ての先生方が3・4年生と5・6年生の担任を受け持ったときに、ALTの協力なども受けながら、担任自身がきちんと外国語の授業を行えるよう、子どもとともに楽しく行えるように、授業力アップを目指して、研修を充実させていきたいと思っております。ありがとうございます。

自治協委員

働き方改革の関係で、2点お願いいたします。

働き方改革のうち、一つは放課後の部活動の指導についてです。部活動のガイドラインに出ているかもしれませんが、中学校だけではなく、小学校でもかなりの部活動をやっているのではないかと考えています。市としては、どういう対応で臨んでいくのか教えていただきたいのが一点目です。

もう一つは、私は地域コミュニティ協議会の委員で、赤塚中学校の学校サポート委員もやっています。その会議は年に2回ありますが、その会議資料が非常に大量で、とても消化しきれないほどの量なのです。会議資料は学校が作成していて、おそらく保護者向けにも出すのですが、こう言っただけは失礼ですけれども、保護者が見ても十分理解できないだろうという気がしますし、資料の作成だけでも、時間と手間がとてがかかっているのではないかと強く感じます。こうした中で、先生方が授業の教科の資料づくりを、本当にゆとりを持ってやっていけるのかと思っています。

赤塚中学校は規模の小さな学校ですので、少人数の先生方が手分けして資料づくりをしていて、本当にとても大変だと思います。会議の話の聞いただけでは効果があったのかどうかも分かりにくいので、資料をもう少し整理した方がいいのではないのでしょうか。学校に対して、あれも出せ、これも出せ、これを作れ、評価しろ、といろいろな資料を求めるのではなく、教育委員会の方でももう少し整理ができないのかという気がしていますので、お答え願います。

学校支援課

働き方改革については学校人事課で主導していますが、部活動に関しては、学校支援課で担当していますので、前半については私からお答えさせていただきます。

新潟市立中学校部活動指導ガイドラインを策定して配って、2年目となりました。その中には、無理なく楽しく、充実した部活動ができるようにということで、練習時間や休養日の目安を示しています。

それから、小学校については、ほぼ体育関係の社会体育に移行しています。部活動として行っている学校は、音楽関係をやっている学校で多少ありますけれども、昔に比べて部活動を小学校でやっている例は少なくなっていると思います。

中学校では部活動指導員を配置していきまして、学校職員以外に指導員の方から教職員と同様に、子どもたちを指導したり、大会の引率をしたりする仕組みを整えています。本年度は8校に配置して、それを今後予算との絡みがありますけれども、拡大できるかどうかという状況です。

自治協委員

ガイドラインを読んでいないので申し訳ないのですが、例えば、朝の練習はしてはいけないとか、あるいは週1回は休みを入れなさいとか、そういう具体的な指示がガイドラインに載っているのですか。

学校支援課

ガイドラインに休養日などは載っています。例えば、平日は1日以上休養しなさいとか、連続する土曜日・日曜日はいずれか1日を休みにしなさいとか、練習時間も平日は2時間以内とか、そうした目安を示しています。

また、各学校から年間の活動予定も出していただいて、年度当初での実施状況を報告してもらって、適正な部活動が運営されるよう、行き過ぎた部活にならないよう、われわれも支援をしているところです。

自治協委員

ありがとうございました。

学校人事課

では、続けて学校人事課からお答えします。今ほど委員から学校サポート委員のお立場でご意見をいただきまして、ありがとうございました。学校人事課の働き方の改革としては、委員の言われた方向と全く同じ方向で、整理をしなければいけないと考えています。では、何をどういうふうに整理していくかということなのですが、小規模校と大規模校ではまず状況が違いますので、その環境に応じた対応や対策が必要だろうと思われまます。

大規模校については、事務支援員を配置して、主に印刷業務とか、教室で使う教材の準備とかをする担当の加配職員をあてがうことができるのですが、今ほどご意見いただいた赤塚中学校のような小規模の学校では割り当てがどうしてもない状況で、教職員も少ない状況です。その中で同じレベルで、学校の教育活動を説明するために、地域への学校評価を説明するようお願いをしているところですが、今委員から言われたように、資料が多すぎて、何をどのようにやっているのかが分かりにくい資料を出している学校もあると思いますし、過剰に資料を出している学校もあると思います。そこは学校で取り組んで、適切な範囲で適切な内容の、もらった方がよく分かるような資料を配布するという申し合わせをしていければと思います。

また重ねて、今ほどいただいた意見を、委員の方から随時学校に上

げていただいて、教育委員会でそれをまた整理して、どのような形が一番地域のための会合になるのか、どのような資料が一番望まれているのかというところを考えていきたいと思います。

今現在の会議の質が低下しないよう、真面目に全部お知らせしなければいけないという気持ちで、赤塚中学校では資料を準備しているのではないかと思います。部活を一生懸命やっている学校と同様に、会議資料づくりで職員が疲れて、授業がままならないような状況にならないために、声かけをして、指導していきたいと思いますので、貴重なご意見をありがとうございました。参考にさせていただきます。

司 会 よろしかったでしょうか。では、そろそろ次の議題に移らせていただきます。また後ほど意見交換の場がありますので、言い残しのご意見がある方は、その場で挙手願います。

続きまして、保護者、地域、学校の連携についての意見交換に入ります。未来を担う子どもたちを、健やかに育むためには、保護者、地域、学校がそれぞれの役割を自覚しつつ、三者が連携していく必要があります。地域全体で目指す子どもの姿を共有し育む体制づくりに関し、現状や日ごろ感じている課題などについて、地域教育推進課の説明の後に、皆さまからご意見を伺いたいと思っています。

議 事 4 意見交換
(2) 保護者、地域、学校の連携について（地域教育推進課）

司 会 ただいま説明がありました保護者、地域、学校の連携につきまして、ご意見ご質問やご提案のある方は挙手願います。

自治協委員 健康スポーツアドバイザー、新通小学校区のクラブ支援ボランティア、スポーツ推進委員をされていて、子どもたちのスポーツイベントなどをお手伝いさせていただいています。その中で感じますのは、私たちのように、常に学校に出入りしているという大人にとりましては、学校の敷居は大変低くて、いつでも気軽に行ける場所なのですが、それ以外の大人にとりましては、学校はまだ敷居が高いのではないかなと思うのです。

地域の方でも、お孫さんとかがいらして、参観日に行けるとおっしゃる方は、学校は気軽に行けると感じていらっしゃると思うのですが、学校に行きたくても行けないという方のために、これからどんどん子どもたちは減っていきますから、空き教室が出てくると思うので、そういう学校の一つでも二つでも、地域の住民、小学校区の住民に開放していただけるスペースを是非取っていただいて、そこで地

域の人たちが集っていただくといいのではないかと考えています。

私たちボランティアは、子どもたちにとって、いつも何かをしてくれる大人として学校に行くわけですので、子どもたちが接する大人はみんな、僕たち、私たちのために何かをしてくれる大人になると思います。できましたら、本当に校内でお茶を飲んでいるとか、自分たちの生涯学習関連の教室をするとか、(子どもたちに対して)何もしないでいる大人も身近にいて、子どもたちの目に触れることも大切なのではないかなと思うのです。

そうしますと、前半にもありましたような、いじめや不登校などで方が一何かあった場合に逃げ込める基地がもう一つできるのではないかという気がしています。もしそれに近いような事例がもうすでに行われているようでしたら、ご紹介いただきたいと思います。

地域教育
推進課

貴重なご意見をありがとうございます。地域と学校パートナーシップ事業を通じまして、学校と地域の連携が進んでいると同時に、その枠をもっと広げていくべきであり、今度はギブ&テイクのような形ではなくて、関わる場面を増やした方がいいというご意見を頂戴しました。ありがとうございます。

地域との連携の中では、していただく、して差し上げるという関係以上に、やはり一緒の地域に住んでいる隣人としての関わりを望み、伸ばしていくことが必要になっていると、私も考えています。そのために、公民館や図書館のような社会教育施設もありますし、学校のような施設もあります。現在、先ほどご説明したパートナーシップ事業の中では、各校に地域連携室という部屋を専用の一つは確保するよう、施設課で取組を進めていて、ほぼほぼ出来上がっているかと思っています。そこが地域教育コーディネーターの執務室にもなっている学校が多いです。そのような場を上手に使いながら、地域の方に来ていただいて、そして関わっていただきながら、交流の場とする取組も出始めています。

今頂戴したご意見も参考にさせていただきながら、ボランティアさんだけが来る場所ということではなくて、たくさんの学びをする場所ということも今後検討する必要があるかなと思いますので、勉強させていただいたと思っています。ありがとうございます。

自治協委員

先ほど万代高校も地域教育コーディネーターを置いているとお聞きしたのですけれども、高校ではどのような取組をされているのか、お聞かせください。

地域教育
推進課

高等学校にパートナーシップ事業が導入され、地域教育コーディネーターを配置しましたのは今年度からになります。

今年度は、まだ試行錯誤の状態では学校は取り組んでいらっしゃるかもしれませんが、高等学校にとっての地域といいますと、校区というのは小学校、中学校と違ってありませんので、新潟市全体を捉えています。そして、子どもたちと地域との関わりというのは、例えば企業であるとか、市内の大学であるとか、NPOであるとか、自分たち以外の社会と結びつくという学びが企業、大学、NPOとの関わりということになるかと思えます。

今年度の万代高校では、インターンシップと称して、企業の皆さん、起業家の皆さんと交流をしたり、起業家の皆さんから企業経営を教えていただいたり、その熱い思いを聞いたりすることを通して、自分の将来像について考えるきっかけづくりをずっと聞いています。

また、市内の大学と連携をして、今ほどの大学もオープンキャンパスをしているのですが、それ以上に大学のことを知る体験活動ができる取組をチャレンジしていると聞いています。

自治協委員

4ページにあります防災会議に昨年出席しまして、ご飯を釜で炊いたり、カレーライスを作ったり、防災士の方のお話を聞いたりしました。その会議では、昔教わった鼻血の止血方法ではなく、違う方法を紹介していました。また、習った救急方法をよく覚えておくよう言われたのですが、風呂敷やバスタオルを当日持参するよう言われていなかったもので、防災士の方が救急手当をしながら説明している姿をただ見ているだけでした。家に帰って、自分でやってみましたが、専門家の方のように上手くできなかったもので、防災会議のときにバスタオルを1本持ってくるよう事前に伝えておいて、会議で参加者が実際にやってみるところまでできたら良かったなと思いました。

司 会

ありがとうございました。貴重なご意見として承りたいと思います。

自治協委員

今ほどの説明を聞きますと、パートナーシップ事業は、学校の中へ地域の方々が入っていく印象が非常に強いのですが、私のように地域コミュニティ協議会の委員もいますので、私たちも心しておかなければいけないと思うことは、子どもたちを学校内や学校組織としてだけでなく、地域の子どもたちとして、地域の行事や共同作業のボランティアなどに積極的に入って来られるよう働きかけていかなければならないのではないのでしょうか。地域の祭りには多くの子どもたちが来ていますが、他の地域活動には子どもはほとんど来ませんし、特に中学生は顔も出しません。子どもたちに地域への参加もどんどん働きかけていかなければ、本当の意味での融合や連携にはならないのではないのでしょうか。地域が一方向的に学校に入るのではなくて、子ども

たちが自然に自分たちの地域のためにやるんだ、やらなければという意識を持たせなければいけないと思うし、その橋渡しや指導などのコミュニケーションの取り方もこの自治協議会でしていただければ、大変ありがたいなと思います。

地域教育
推進課長

ありがとうございます。先ほどご説明しました地域と学校パートナーシップ事業のスタート当時は、学校に地域が入って来ていただくことで始まったものですから、多くの地域の方がボランティアとして来ていただくことを目標にしていました。平成25年度ぐらいから、子どもたちの力を地域に生かして、地域の方々とのやりとりの中で、子どもたちが学ぶこともたくさんあるよねということで、外に出て行く活動がどんどん増えていきました。

その中の一つが先ほどお話いただきました防災であり、地域での貢献活動ということです。各学校の状況に合わせて、取組内容は全く違います。例えば、地域の道路をきれいにするという取組をしていたり、あるいは地域のお年寄りのためにゴミ出しのお手伝いをしたり、あるいはお弁当を届けたりするといった活動を行う学校が少しずつ増えてきています。

ただその学校に応じた取組があるかと思いますので、全ての学校ができるというわけではないことをご理解いただきたいのと、ぜひ地域の皆さまがこういうことをしてくれるといいなということを学校に話していただければと思います。学校としては、子どもたちの学びにつながるからすぐにやりましょうとか、これは子どもたちが忙しすぎるから少し待ってくださいねとか、そういったやりとりが出てくると思います。地域の思いと学校の考え方をしっかりとつないでいただく機会を用意していただいて、活動が変わっていってくれるといいなと思っています。貴重なご意見、ありがとうございました。

自治協委員

私としては、学校ではなくて、私たちが地域を代表しているわけですから、地域としても積極的に主体的に子どもが自分たちの地域に関わる取組をしなければいけないことを言いたかったものです。

地域教育
推進課

ありがとうございます。

司 会

西区では、地域課の事業の中で「西区地域盛り上げ隊」といった事業もありまして、区役所の力も借りまして、地域の課題やその対応を中学生に考えていただくような授業もしています。貴重なご意見をありがとうございました。

自治協委員

地域教育コーディネーターの立場でいますので、少し質問というか、お話をさせていただこうと思っています。

このパートナーシップ事業も13年目を迎えて、私自身コーディネーターとして、いろいろなところが変わってきているなど感じています。学校にコーディネーターがいて、先ほどお話があったように、地域の方にとって学校の敷居がすごく低くなって、大勢の方が来てくださっています。ただし、やはり学校に来るということは、子どもたちのために何かをするという枠組みの中からはなかなか出きれない、出て行かないところがあります。学びの場というところはありますが、それ以外では、いつも地域の誰かがいて、お茶の間的な居場所がつけられるほど学校には余剰教室がなかったり、環境がなかったりしています。コーディネーターとしましては、子どものために来ていただいたその時間を使って、終わってからの反省会やら、お茶飲み会やらをしながら、次の企画を考えたり、地域の方がいつも学校の中のどこかにいるという環境をつくったりすることがいいのではないかなと思っています。

それを続けていっていると、私たちがいつも何かをする側になるのではなくて、坂井東小学校では、年度の終わりに6年生が企画して、いつも来てくださっているボランティアさんを対象にしたお礼の会を開催しています。お茶の間的な雰囲気の中で、子どもたちがお茶を出してくれたり、クイズを出してくれたり、一緒に歌を歌ったりする、本当に20分ぐらいの会ですけれども、そういった会をやる流れが出てきています。それはいつも地域の誰かがいることで、やってもらうだけではなくて、自然発生的に僕たち私たちが何かしてあげたいとか、感謝の気持ちを伝えたいとかいう気持ちが生まれてきたのかなと感じています。

ただ一つ、私がコーディネーターとして気を付けていかなければならないなど思っていることがあります。10ページに書かれている地域団体の意識調査の結果からも分かるように、本当に地域の方は学校で子どもたちとつながりたい、学校とつながってみたい、いろいろなところで子どもたちの参加と一緒に活動したいという気持ちを持っています。けれども、地域と一緒に活動することは、前半で話された教職員の多忙化解消の取組と正反対とまでは言いませんが、何となく相反するところがあります。なので、先生方からも手助けやアイデアをもらって、学校の教育目標や子どもたちをどういうふうに育てたいかという狙いの中で、地域と学校のお互いが同じ方向を向いて、Win-Winの関係で授業を展開していかなければならないなど。

教職員の多忙化軽減の中で、このパートナーシップ事業がどのようになくなっていくのだろうかとか心配なところがあります。例えば、パート

ナーシップ事業のボランティアさんに、子どもたちの教育活動のためのボランティアさんだけでなく、先ほどお話がありました、教職員の多忙化解消のためのサポーター的なボランティアさんが含まれています。その他でも心配するところがあるのですが、教育活動には狙いがあるというところは揺れないよう、しっかりと地域と学校をつなげていきたいなと感じています。

地域教育
推進課

貴重なご意見ありがとうございました。まずお話をいただいたのは、地域と学校の連携を通じて、こういうことが大事だよということをお話いただいたと思っています。それからもう一つは、これが学校の多忙化とかにつながるのではないかと、地域の思いと学校の思いをどうつなげていくのかというお話だと思います。そういう意味では小川委員のお話も共通しているのかなと思います。

私たち教育委員会としては、地域と学校の連携は、これからも進めるべきだと考えています。その際に大切にしたいことは、学校はどのような学校にして、子どもを育てていきたいのか、地域の皆さんは地域の子どもたちをどんな子どもたちになってほしいのか、そのためには何をすればいいのかということ、しっかりと話し合っながら、必要な取組をするということだと思います。ですから、この取組はまだ棚に上げましょうというものの中にはあるかもしれません。学校によって内容が変わってくることもあります。そして、その話し合いをしっかりとやっていく取組が、教育次長から先ほど少しお話のありました、コミュニティ・スクールという制度です。

コミュニティ・スクールという制度は、今後モデル校から始まって、全校実施に向かっていきます。地域と保護者と学校が一緒になって、どんな子どもたちを育てていきますかという話し合いをしっかりとすること、そのときにどの活動をまず始めようかと決めること、その活動は誰にやってもらうかをしっかりと決めることがコミュニティ・スクールの役割だと、私たちは思っています。

そのような取組をこれからしていくことが、地域の皆さんのニーズにこたえつつ、子どもたちの学びにつながるものは何かということにつながると思っています。このコミュニティ・スクールについては、まだ制度設計の途中で、詳細が決まっていき次第、状況に応じて皆さんにご説明する機会が出てくると思いますので、よろしくお願ひします。

自治協委員

貴重なご意見をいろいろ聞けて、勉強になりました。ありがとうございます。この場でお話することを迷いましたが、盲点にならないよう、いつも気にしていることを一つだけ申し上げたいと思います。

私たち民生委員、児童委員は、中学校や小学校に年に1・2回関わ

ったり、また地域のボランティアとして、いろいろな学校に入り込んだりしています。そうした中で気付くのですけれども、私たちが一生懸命にやればやるほど、PTAのお父さんやお母さん方から地域にお任せすればいいわ、という感じが何となく伝わってきて、どうしても否めないのです。特に新しい民生委員、児童委員の方がそう感じてくるようです。

私たち民生委員、児童委員は、子どもたちのために活動していますが、親たちにどこまで関わったらいいのか、と悩むことが多いです。親たちが仕事を多少融通して、子どもが今やっていることに一緒に関わろうという気持ちを少し忘れているなと感じるときもあります。

おそらく教育委員会の皆さま方は一生懸命やっいらっしゃり、私たち地域も頑張っていますけれども、やっぱり一番大事なところは、親がしっかりと子どもを育てたり、関わったりする力のために、私たちが頑張っているように持っていかなければならないなと思っています。そのためにも、コーディネーターだけではなくて、PTAの活性化が必要で、私も昔に会長をしていましたが、PTAの活動が薄れていってはならないと思うのです。コーディネーターはもちろん大事ですが、やはりPTAも大事ですので、PTAからもっと参加していただきながら進めていただきたいと思います。

地域教育
推進課

貴重なご意見、ありがとうございます。実は今日の意見交換の議題は、保護者・地域・学校の連携についてです。保護者の皆さんの連携の関わり方については、委員から今お話のあったように、働き盛りで、なかなか仕事と家庭で精一杯な保護者の皆さんからすると、どう関わっていくかということは大い課題だと、私たちも思っています。

今後第2回目の教育ミーティングもありますので、皆さまからのご意見を頂戴しながら、保護者の皆さんも一緒になって、この事業をより一層活性化していくためにはどうすればいいか、お知恵を拝借させていただきたいと思ひますし、私たちも勉強していきたいと思ひます。貴重なご意見をありがとうございます。

司 会

では、以上をもちまして意見交換は終わらせていただきます。本日はいただいたご意見から課題を抽出し、次回の教育ミーティングでは、課題への取組内容や成果などについて情報共有をしたうえで、また皆さまと意見交換をさせていただきたいと思ひています。貴重なご意見、ご提案をありがとうございます。

ここで教育委員の方々から本日の感想を伺いたいと思ひます。渡邊教育委員からお願いします。

渡邊
教育委員

今日は皆さんの貴重なご意見を聞かせていただき、ありがとうございます。あまねくいろいろな分野の委員の方々からたくさんのご意見をいただき、私もとても勉強になりました。特にとてもいいなと思ったことは、地域教育コーディネーターの方のお話の中で、6年生の子どもたちがボランティアの方々へ感謝の気持ちで、ちょっとしたお礼の会をしている話です。他の委員からも、校内に地域と子どもたちが交流する場を、とのご提案がありましたが、すでに世代間交流ができる場所をつくっている学校もあると伺っています。空き部屋の問題などもあり、可能かどうかは分かりませんが、本当にコーディネーターのご尽力で、子どもたちと地域の方々が結び付いて、いい学びができ、心が豊かになる関係が築かれていることを嬉しく思いました。

それから最後のお話についても、私も以前民生委員をやっていましたので、本当にそのとおりでなと思うことがありました。保護者の方々は、私たちの時代とやはり少し違っていて、仕事をしている方も多いので、なかなか学校に来る機会が少なくなっているなと思っています。それでも、もしかしたら働き方改革が叫ばれている中で、考えようによっては、自分の子どものために仕事を休む機会が作りやすいのではないかとも思っています。働くうえで考え方が変わっていかなければいけないと私自身も思っていますし、コミュニティ・スクールのこれからの期待しています。皆さんのご意見もありがとうございました。

佐藤
教育委員

貴重なご意見ありがとうございました。PTAや保護者の関わりが少ないということは、実はPTAの会合の中で私が一番よく言っていることです。私が様々な会合で手を上げるたびに、そのことばかり言うものですから、教育委員会は困っていると思いますが、実際に私もそう思います。保護者の現状として、なかなか時間ができないという課題もありますが、私もPTA会長を7年ほどやっていたので感じることは、時間をつくれるかどうかの他にも、PTA自体が嫌だなどの参加しない理由がいろいろ複雑にあると思います。

そういうところを解決していかなければいけないと思うのですけれども、教育委員会と新潟市のPTA連合会と、少しずつなのですが、意見交換会を持ったり、交流を深めだしたりしたところですが、昨年の会長は、やはりPTAの活動自体を見直さなければいけないと言っていましたし、組織も少しずつ変わりだしてきています。なので、今後のPTAに期待したいなと思っていますし、期待するだけではなくて、いろいろな働きかけもしていきたいなと思っています。

それからパートナーシップ事業のところでも聞いていて感じたことですが、教育委員会が持っていきたい方向を委員の皆さんが感じ取ってくださって、まるでシナリオがあるかのように意見が出ているなと感

じていました。けれども、(もちろんシナリオがあるわけではなく) その意見も委員の皆さんが普段から考えていらっしやったことだということで、すごく嬉しく思っているところです。

教育委員会の施策の一つとして、中学校区ミーティングがあって、今年から3年の間に各中学校区で1回しか開催されないのですが、そのミーティングに集まるメンバーで、中学校区でどういう子どもを育てたいのかについて話し合うことになっていて、私もお邪魔します。学校ごとに教育目標がありますが、中学校区における教育目標のようなものを皆さんで話し合っ、作り上げて、それに向かって何をしようかということを考えて、進められたらいいのではないかなと私自身は思っています。中学校区ミーティングは3年に1回の開催でしかないのです、中学校区に関わる方が今お話のあったようにPTA会長も含めて、中学校区でどのような方向の教育をしていこうよという話を年に1回、もしくは年度初めと終わり頃に2回できたらいいのではないかなと思っていますので、ぜひ自主的に、積極的にそのことを始められてもいいのではないかなと思いました。

また、一番初めにいじめや不登校へのご意見をいただきました。皆さんがどう思われたか分かりませんが、教育委員会の面々は、どんなご質問に対しても、資料がなくても、すらすらと答えています。僕は教育委員6年目ですが、委員になった頃は教育委員会は何をしているのかなと思っていますが、とても細かいところまで熟知していて、もちろん100%というわけではありませんが、いろいろな課題に対峙して、細かな対応をしています。ただなかなか細やかに対応していることを全て伝えられていないので、委員の皆さんがご心配に思うところがあって、今日のような会議の中で質問されているのだと思います。けれども、今日ここで皆さんとネットワークが出来上がりましたから、ぜひ疑問に思うことがあれば、教育委員会に直接質問してもいいですし、西区ですから教育支援センター所長にでもどんどん質問していただいても結構だと思います。教育行政に関して、皆さんからご意見をいただいたり、ご質問をいただいたりして、われわれもまた向上していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

少し長くなりましたが、感想を述べさせてもらいまして、私からのあいさつとさせていただきます。皆さん、ありがとうございました。

議 事 5 自治協議会会長挨拶

本日の教育ミーティングでは、教育委員会の施策全般のほか、地域と学校パートナーシップ事業の取組について、当自治協議会の委員と活発な意見を交換できたことは大変嬉しく思っております。

私の地域では、昔は中学校区でパートナーシップ会議を年数回行っていました。今は課題があまりないということで年1回になってしまいました。中学生ぐらいになりますと、防災を含めて、いろいろな地域活動で力になってもらいたい年代なので、大変期待しているところがありますけれども、学校の都合や担当の方の忙しさもあって、私たちが目指す方向と少し違うかなと思うことがあります。それについては実際に申し入れもしています。

地域が何を一番欲しがっているかという、先ほど発言がありましたけれども、やはり地域と学校とのつながりをもっと密にするために、学校にだけいるのではなくて、例えば、まちづくりセンターで生徒の代表と意見交換をしたいと思っているのです。地域教育コーディネーターに申し出を何度かしていますが、学校の都合が悪かったり、入試や部活で忙しかったりして、なかなか話が進んでいません。せっかく地域とパートナーシップ関係を結んでいるのですから、パートナーシップ事業として、中学生と一緒に20年後の未来を語る意見交換を試みたいと思っています。既にやっている学校もあるようなので、具体的な事例などを後日詳しく教えていただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。いずれにしましても、こうした会議を通して、いろいろなお話を聞かせてもらったことは、私たちがこれから子どもたちを育てていくうえで原点にもなりますので、大変ありがたいことだと思っています。

いじめに基づく自殺や、子どもが巻き込まれる事件事故が多発していて、そのたびに私たちは心を痛めて、地域で何とかできないものだろうかと考えています。私は日頃より自治会長さんに、地域の子どもは地域で育てるんだとお願いしています。それが私の地域活動の原点ですので、例えば、子どもの下校時間帯に花の水やりをやったり、犬の散歩の時間を合わせてもらったりして、皆さんからも見守り活動に是非協力してもらえないかと呼びかけています。特に一番被害に遭いそうな小学1・2年生の子どもの人数は、今非常に少ないですから、子どもたちの帰る時間に合わせて町内活動をしてもらえば、少しでも防げるのではないかと、いろいろなところでお願いしています。

今日聞いた貴重なお話を、これからの我々の地域活動にも生かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

司 会 ありがとうございました。以上をもちまして西区教育ミーティングを閉会します。皆さま、長時間にわたり、ありがとうございました。今後ともよろしくをお願いします。

議 事 6 閉 会